

徹書記物語上

お尋道定家と雜どひお尋は冥かともあれ
愈々いど符をわしゆりへきまなりその
末流ニ乘込泉西流りしゆれ為道二流を
三乃流あつて摩醯醯の三目れびとくや
そがひも抑揚廢敗あはつとせと内う
い清きとりておぼくさうさあもあうさうれ
是ホ乃一流いれいづふ一物をゆまびくを
れくあうそひあへり全まはは六目をわく
をういどわらうがふとて是定家の風骨紙

教上

行

〇三

どどのづうう西子た家よハ新の字とうさ
冷泉家よハ新の字とうたふぬひーとうや
うまりけりなり人扁乃徳の字和とおま
い申すなりとさあがういづまも目ある
ハまらたぐんよのうらうらうらうら
なりせんまをば生まをば今とびとまふ
それそとておあるとなりすうとてお
おあつてさなり

寛文二年三月吉辰

徹書記物語下

谷園七九傳板